様式４

大学等名 福岡工業大学

# 自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

教学マネジメント部門 評価・推進部会

（責任者名） 山澤　一誠　　（役職名） 教務部長

② 自己点検・評価体制における意見等

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|---|---|
| 学内からの視点 | |
| プログラムの履修・修得状況 | 当該プログラムは2023年度より開始したため修了者はいない。工学部における当該プログラムの履修者数および履修率について、履修者は学部全体で17名、履修率は学部全体で約2%だった。入学年度毎の状況については以下のとおり。<br>■2023年度入学生　履修者：6名　　履修率：1.3%<br>■2024年度入学生　履修者：11名　履修率：2.4% |
| 学修成果 | 数理的な素養に基づき、様々なデータを適切に収集・分析・可視化するスキルを身に付け、工学分野において数理・データサイエンス・AIを応用するための視点を持つことを目的とする。 |
| 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度 | 本プログラムの対象科目における学期末の授業アンケートでは「Visual Studioを用いた演習の中で、C言語プログラミングの基本について理解することができた。」「プログラミングについて何も知らなかったが授業を通して色々なことを知ることが出来たので良かったと思う。これからもプログラミングは社会に出て必要な能力なのでもっと使いこなせるように練習していきたい。」等の回答があった。 |
| 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度 | 本プログラムの対象科目における授業アンケート結果では、「ソースコードの意味は深いところまで理解している状態であるのが理想。」、「プログラムの定型文や関数の意味について、実践しながら覚えていくと良いと思います。」等、学生自身が科目の重要性について理解をした上で、後輩学生へのアドバイスとなる内容の回答があった。 |
| 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況 | 1年生を対象とした入学直後のオリエンテーションで周知を行うとともに、課外で「FIT-ITセミナー」として、学生向けにデータサイエンスに関連する次世代型企業を招聘し、産業界で起こっているDXに対する理解の浸透を目的とした講演会を開催するなどの取組を行い、履修への意欲喚起を図った。 |

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|---|---|
| 学外からの視点 | |
| 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価 | 本プログラムは、2023年度から 1 年次生を対象として開講されたため、本プログラムを履修し、修了して卒業した学生はいない。2027年度以降、学生の進路・採用状況等を把握していく。 |
| 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見 | 当該プログラムについて、産業界の外部委員が参画する会議体にて、履修状況や、対象科目における学期末の授業アンケートの結果を報告し、評価を得た。（2025/3/3開催 令和6年度第２回 福岡工業大学人材育成協議会） |
| 数理・データサイエンス・ＡＩを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること | 一部の科目において、取り扱う題材に関して社会の実例データおよび実課題を取り上げることで、学生が好奇心を持つことができるよう工夫している。 |
| 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること<br><br>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載 | 学生の履修状況及び学期末の授業アンケートの結果に基づき、授業内容及びその方法の見直しを行っている。 |